



オニバス

絶滅の恐れがある、ため池で直径1メートル以上になる浮葉をつける一年草。

環境保全及び健康危機管理の対策と県民参加に向けて



当研究センターは、循環型社会づくりに向けた取組みや健康危機管理対策等の新たな行政課題に的確に対応するため、昨年四月に、香川県衛生研究所と香川県環境研究センターとの統合により、本県の環境保全と保健衛生に関する科学的、技術的な中核試験研究機関として、新たに発足しました。統合に際しては、これ迄の環境科学及び保健科学部門に加えて、廃棄物・リサイクル部門や、企画・情報及び自然環境担当が新設されるなど、当研究センターの調査・研究体制がより一層充実・強化されました。

さて、近年は、皆様もご存知のとおり、牛海面状脳症（BSE）やこれに関連する食肉偽装問題、さらには輸入食品中の残留農薬や健康食品の問題など「食の安全」を損なう事件が発生しています。また、米国の同時多発テロに関連する炭疽菌などのバイオテロや新たな感染症問題への対応が必要となるなどの、人の健康に関する調査研究やその

危機管理対策が重要な課題となっています。

一方、今日の環境問題は、生活排水による水質汚濁、廃棄物処理といった身近な問題から、温暖化等の地球規模の環境問題、さらには、ダイオキシン類や内分泌攪乱化学物質、いわゆる環境ホルモンなどの化学物質による環境への影響など、ますます多様化し、複雑化しています。

これらの課題に的確に対応するためには、より専門的、科学的アプローチが不可欠であり、当研究センターは、環境保全・保健衛生に関するさらに高度な技術力を有する調査研究機関となるよう努めることが必要であると考えています。

また、地球環境問題の解決や適切な健康危機管理のためには、県民の皆さん一人ひとりが、このような問題に、より一層関心を持っていただき、自主的、積極的に活動等に参加していただくことが必要であり、そのためには、県民の皆さんに、環境保全や保健衛生に関する情報を正確に、また幅広く提供することが重要です。当研究センターでは、平成14年に、県民の皆さんの環境・保健の教育・学習を支援する窓口として「環境研・学習サポートボックス」を設置しており、当研究センターの施設・技術等を活用して、独自の環境保全・保健衛生に関する教育・学習を進めるとともに、県環境部が実施している訪問型環境教育・学習事業である「環境キャラバン隊」にも参画しています。

当研究センターは、今後、水と緑に恵まれ、健康でうるおいのある郷土創りをめざして、さらに努力したいと考えていますので、より一層のご指導、ご協力をいただきますようお願いいたします。

（環境保健研究センター所長 横井 聡）

施設見学、環境保全・保健衛生の情報を提供します。「環保研・学習サポートボックス」が小中学校等で、環境保全・保健衛生に関する教育・学習の開設をします。「環境キャラバン隊」の環境学習を支援します。

「企画情報」

1. 環境保全、保健衛生に関する情報の収集
2. 環境保全、保健衛生に関する普及・啓発、教育・学習事業
3. 環境保全、保健衛生に関する研修、講習
4. 共同研究等に関わる企画及び調整
5. 試験、検査等の信頼性確保に関わる企画及び調整



環境キャラバン車内での環境学習



香川県環境保健

環境科学部門

清い水をまもり
親しみのある
水辺をつくるために

工場や事業場の排水検査、河川・海域などの水質調査、瀬戸内海の汚染防止などについて取り組んでいます。

「水質汚濁」

1. 公共用水域、地下水の水質汚濁
2. 海域等の底質汚染
3. 工場等の排水
4. 土壌汚染及び地盤沈下

「化学物質」

1. 水質の化学物質汚染
2. 底質の化学物質汚染
3. 工場等の排水の化学物質

「水道水質」

1. 水道水・飲料水の水質



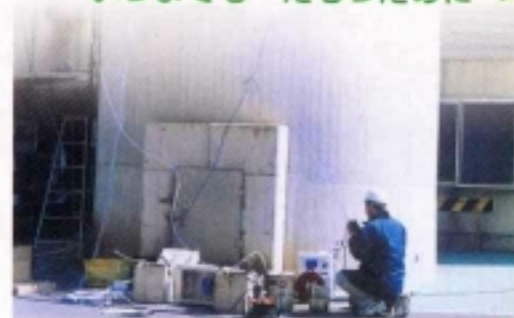
海域での水質測定

香川県衛生研究所と香川県環境保健センターと保健衛生に関する科学的、技術的足しました。

水と緑に恵まれた美しい郷土づくり
健やかなからだ、さらに安全でうる



青くすみきった空を
いつまでも たもつために



煙突での煙道排ガス測定

環境科学部門

さわやかで
静かな生活空間を
まもるために

悪臭や騒音・振動などの感覚公害について取り組んでいます。

「騒音・振動・悪臭」

1. 騒音・振動及び悪臭



無音室での騒音解析

環境科学部門

大気汚染は、工場や自動車などからの排出ガスが、大きな原因となっています。硫酸化物やオキシダントなどの汚染物質を常時監視し、汚染が強くなると地域の人々の健康と安全のために緊急発令を行います。そのほか、有害な大気汚染物質の調査や県下の環境放射能などの測定をしています。

「大気汚染」

1. 環境大気汚染
2. 工場等から排出される煤煙等

「常時監視」

1. テレメータシステムによる大気汚染常時監視
2. 大気汚染の緊急時の措置
3. 環境放射能



大気汚染常時監視・環境情報システムの中央監視室

研究センター

センターとの統合により、本県の環境保
な中核試験研究機関として、新たに発
と、循環型社会づくりをめざします。
おいのある暮らしを守ります。

廃棄物・リサイクル部門

循環型の社会づくりをめざして

市・町などの廃棄物処分場の排水調査
や廃棄物などの調査をしています。
廃棄物の資源化へのリサイクルなどに
取り組んでいます。
また、焼却炉や豊島（てしま）廃棄物
問題などのダイオキシン類の分析に取
り組んでいます。

「廃棄物」

1. 廃棄物に関わる環境影響
2. 廃棄物の排出抑制及び適正処理

「資源化・リサイクル」

1. 廃棄物等の資源化・リサイクル



ダイオキシン類分析の前処理

保健科学部門

インフルエンザウイルスは今年は何型が流行するのか

食中毒の原因となる細菌やウイルスについて調査を行っています。
水道水中のクリプトスポリジウムの検査を行っています。
呼吸器系ウイルス、腸管系ウイルス、エイズウイルスの検査や研究に取り組んでい
ます。



海外（ラオス国）
からの見学研修

「微生物」

* 食品細菌

1. 食中毒など食品由来細菌
2. 食品等に由来する危機管理
3. 残留抗生物質
4. 衛生害虫

* 病原細菌

1. 細菌感染症
2. 病原細菌等に由来する危機管理
3. 原虫
4. 遺伝子検査

* ウイルス

1. ウイルス感染症
2. ウイルス等に由来する危機管理
3. クラミジア、リケッチア感染症
4. 実験動物



食中毒菌の同定

保健科学部門

食品中の添加物や合成
抗菌剤、残留農薬など
の調査や、温泉分析な
どを行っています。
また、遺伝子組換え食
品の調査やシックハウ
ズ症候群の原因といわ
れる室内空気汚染の調
査にも取り組んでいま
す。



地下水の温泉分析



食品の化学物質検査

「生活科学」

* 食品・家庭用品

1. 食品の化学物質
2. 家庭用品
3. 遺伝子組換え食品の
解析
4. 食物アレルギー

* 医薬品・温泉

1. 医薬品、毒劇物
2. 温泉
3. 室内の衛生
4. 化学物質の緊急危害

環境科学部門

生物多様性に向けて

ニッポンバラタナゴやオニバスなど
の保護に取り組んでいます。

「自然環境」
野生動植物
の調査、保
護、増殖等
など自然環
境の保全



ニッポンバラタナゴ

保健科学部門

小児ガンを早期発見 新生児の健やかな成長 をねがって

次世代を担う新生児の先天性代謝
異常症や小児ガンである神経芽細
胞腫の検査を行っています。

「臨床科学」

1. 先天性代謝異常
2. 神経芽細胞腫
3. 血液検査



新生児代謝異常症等の検査

2月から黒煙排出ディーゼル車などを通報 県民パワーに期待!

黒煙を出して、走っている車いませんか?

県では、知事から委嘱を受けた県内各地の環境監視員* (112人) から黒煙排出車両情報の提供を受けて、四国運輸局香川運輸支局と共同で、使用者に整備不良車両の点検・整備を促します。

この制度は、黒煙の早期発見と改善により、クリーンな大気環境の保全を図ることが目的で、中四国では初めて。

当研究センターの大気汚染常時監視情報システムの機能に加えて、発生源の早期発見と改善が期待できます。
(*香川県環境監視員は、産業廃棄物の不法投棄、水質汚濁、大気汚染などの地域の日常生活で知り得た情報を県に通報します。)



お知らせ

第1回かがわ環境研・フォーラムの開催について —調査研究発表会—

- 1 日時 平成15年3月13日(木)13:30~15:50
- 2 場所 香川県環境保健研究センター研修室 (三階)
- 3 会内容 ①記念講演

環境行政を担当した35年間
所長 横井 勉
「温泉蛙」の教訓
研究主幹 十川 聖三

Ⅱ 調査研究発表

ウニ卵を用いる水質の生物試験法に関する研究
—環境ホルモンによるウニ卵への影響調査—
多田 千鶴子 他
測定回数が少ない年間平均値の信頼性の推定
西原 幸一 他
昼食弁当を原因食として発生した
S.Enteritidisによる食中毒事例の疫学的検討
三谷 芽生 他
香川県における日常食品中の無機元素の
摂取量について (第2報)
西岡 千鶴 他
(参加申し込みは、当研究センターの企画情報担当です。)

「環境学習プログラム集」好評!

- 「循環をテーマにした環境学習」
- 「生き物をテーマにした環境学習」
- 「森林をテーマにした環境学習」



当センターでは、「循環をテーマにした環境学習」を担当しました

「総合的な学習の時間」が昨年4月から実施

され、環境学習を実施する先生方の参考書として「環境学習プログラム集*」が、県環境・水政策課で作成され、昨年、県内小中学校に配付されました。

内容は、「循環」、「生き物」、「森林」の各分野について、学年や学期を通じた学習の流れを示す「プログラム」と、個々の実験などについて基礎知識や手順を解説した「アクティビティ」で構成されています。

これは、小中学校、NGO、行政機関などで、日々環境教育を実施している担当者などによるワークショップが開催され、幅広い視点で検討しながら執筆が行われ、編集されたものです。
(*このプログラム集の内容は、「香川県ホームページ」→香川の環境 (TOPICS) でご覧になれます。)

主な実施行事

平成14年度全国環境研協議会中国四国支部会議を高松市で開催

平成14年7月18日(木) 支部長表彰(7名) 当研究センターの主席研究員 西原幸一氏が受賞
特別講演

「高温高圧流体を利用した環境調和型の技術開発」
講師：かがわ産業支援財団高温高圧流体技術研究所
所長 森吉 孝 氏



平成14年7月19日(金)

特別講演
「島廃棄物問題と道島エコタウン計画について」
講師：香川県廃棄物対策課 課長補佐 高木 茂 氏

かがわの環境パネル・写真展と船倉島の野鳥たち

平成14年7月23日(火)~8月18日(日)
高松市生涯学習センター まなびCAN
エントランスホール

〒760-0040 高松市片原町11番地1
「むらぶ片原町」ビル内
TEL 087-811-6222 FAX 087-821-8022



編集後記

一昨年の夏は、暑い暑い青息吐息でしたが、昨年は、7月に大型台風が襲来する珍事に加え、気温が昨年を上まわる40度に迫る勢いでした。また、今年の冬は、霧下の日が続くなど気象の変動が大きくなっているようです。

なお、太平洋にあるツバル国は、年々海面が高くなるので、人々はニュージーランドに移住しているとのことです。「地球の温暖化」は、現実です。

なお、香川県衛生研究所と香川県環境研究センターとが統合し、香川県環境保健研究センターが発足しましたので、既刊の「環境研だより」は第27号で終刊しました。

ご愛読をいただき、ありがとうございました。
今後も「かがわ環境研だより」をよろしく願います。

かがわ環境研だより 創刊号 平成15年1月

編集発行 香川県環境保健研究センター
〒760-0065 香川県高松市朝日町5丁目3-105

| | | |
|-------------|----------|--------------|
| 総務企画課 | 総務担当 | 087-825-0400 |
| | 企画情報担当 | 0415 |
| 環境科学部門 | 水質担当 | 0401 |
| | 大気担当 | 0402 |
| | 常時監視担当 | 0403 |
| | 自然環境担当 | 0401 |
| 産業物・リサイクル部門 | 観・観計計計計計 | 0405 |
| 保健科学部門 | 微生物担当 | 0412 |
| | 生活科学担当 | 0413 |
| | 臨床科学担当 | 0414 |
| | FAX | 087-825-0408 |

E-mail : kankyokenkyu@pref.kagawa.jp

E-mail : kagawa-kanpoken@nifty.ne.jp

(環境研・学習サポートボックス)

HP : http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/e_center/index.htm

印刷 株式会社

(このかがわ環境研だよりは100%再生紙を使用しています。)

(表紙の写真は、県環境部自然保護室の提供です。)